

# リハセンだより



第49号



## 着任にあたって

事務部長 小野崎 大

このたび、この緑豊かなリハセンの事務部長に就任いたしました。病院の事務は初めての経験です。新鮮な気持ちで精一杯努めたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。着任初日から、どこへ行っても皆さんから元気な温かい挨拶をいただき、うれしく思いました。当病院がコミュニケーションを大切にしていることが伝わってきました。また、新人職員の方々が新しい職場で頑張っている姿は頼もしく、それを指導される方々との息もぴったりで、病院全体の活気を感じているように思います。リハセンも独立行政法人となって3年目を迎えております。この間、法人化後の組織・運営体制の整備強化や日本医療機能評価機構による病院評価認定、新医療情報システムの稼働など、提供する様々なサービスの向上に努めてきております。

昨年ベストセラーになった「もしドラ」、私も引き込まれて読みました。ドラッカーは病院にもマネジメントが必要であり、その役割は3つあるとしています。自らの組織に特有の使命・目的を果たすこと、仕事を通じて働く人々を活かすこと、自らが社会に与える影響を処理するとともに社会に貢献することです。

リハセンは、県立病院であり、様々な使命や理念を持って運営されています。県民の期待は大きく、県内のリハ医療・精神医療の中核的施設としてその役割を果たさなければなりません。医師の確保や経営改善、医療設備投資など課題もありますが、法人化によるメリットを活かし、職員一人ひとりがプロフェSSIONナルとして力を合わせて目標を達成できるよう、私も努力していきたいと考えています。

数年前から花粉症です。春のこの時期、リハセンを囲む杉木立は、私にとっては少々刺激的です。この文章が皆様の目に触れる頃には花粉症が一段落していることを願いつつ、一生懸命努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 部分免荷トレッドミル歩行訓練について

### ●どんな治療法か？

- ・胴体にハーネスと呼ばれる釣り具をまき、上からつり上げた状態で、トレッドミル（ベルトコンベアのように床が動く機械）の上を歩く練習です。上からつり上げることで、体重の1割から最大4割程度まで軽くした状態で歩くことができ、足が引っかかっても転ぶ心配がありません。



### ●どんな人が治療の対象か？

- ・一人で歩くのが大変な方、自分の力だけで体重を支えられない方

ハーネスでつり上げるため、わずかな援助で歩行練習ができます。



- ・歩くときに左右の足の出し方にばらつきがある方  
床が一定の速さで動くので、それに合わせて足を出す必要があるため、リズムよく足を出すことができます。
- ・普通の床では転びそうになるため長い距離を歩けない方  
脳卒中などによる麻痺で足が引っかかり、転びそうになる方はなかなか長く歩く練習ができません。ハーネスでつり上げることで、転ぶ心配が少ない状態で長い距離を歩く練習ができます。主に脳卒中や脊髄損傷で足に麻痺のある方やパーキンソン病など歩行のリズムを取りにくい方などを対象に行っています。

### ●どんな効果が期待できる？

- ・歩行する速さと耐久性を改善させる効果があるといわれています。

トレッドミルの上を歩くことは、慣れるまでに時間がかかり、機械の動く速さに合わせることで大変なときもあります。すべての方に絶対に効果があるというわけではありませんが、日本国内のみならず、海外でも歩行能力の改善に効果があると報告されています。

(理学療法室 須藤 恵理子)



## ※ 当センターは紹介型病院です

当センターのリハビリテーション科、神経・精神科、もの忘れ外来は予約制になっております。受診希望の方は現在受診している医療機関からの紹介状と診療予約が必要となります。

(外来受診に関する申し込み・問い合わせ先) 018-892-3751 医療相談室まで

## ※ FAXによる入院予約申込み（リハビリテーション科のみ）

当センターではFAXによる入院予約申込み（リハビリテーション科のみ）も受付けております。初めてFAXによる入院予約を希望される場合は「地域医療連携科」までご相談下さい。

地域医療連携科 直通電話 018-892-3798

外来受診を希望される場合は上記の「医療相談室」が窓口となりますのでお間違いのないようお願いいたします。

## 外来診療担当表



### ●リハビリテーション科・もの忘れ外来・高次機能障害外来診療担当表

	月	火	水	木	金
リハ外来（新患）	荒巻 晋治	横山 絵里子	佐山 一郎	細川 賀乃子	佐山 一郎
リハ外来（再来）			下村 辰雄		
もの忘れ外来	小畑 信彦 (神経精神科)	下村 辰雄 (リハ科)	佐藤 隆郎 (神経精神科)	下村 辰雄 (リハ科)	横山 絵里子 (リハ科)
高次機能障害 外来					下村 辰雄 (リハ科)

### ●神経・精神科外来診療担当表

	月	火	水	木	金
新 患	①向井 長弘	①成田 恵理子	小畑 信彦	①伏見 雅人	倉田 晋
	(高橋 祐二)	②倉田 晋	(高橋 祐二)	②兼子 義彦	
再 来 1	倉田 晋	小畑 信彦	兼子 義彦	高橋 祐二	兼子 義彦
再 来 2	成田 恵理子	高橋 祐二	向井 長弘	倉田 晋	小畑 信彦
再 来 3		佐藤 隆郎		向井 長弘	成田 恵理子

### ●外来診療受付時間 午前8：30～11：00

# 心のケアチーム活動報告

東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。  
リハセンでは被災地に「心のケアチーム」を派遣して支援を行っています。第1班が3月23日から3月25日まで、第2班が4月6日から9日までそれぞれ盛岡市、宮古市で支援活動を行いましたのでその活動を報告いたします。

## 第1班からの報告

派遣職員：高橋 祐二（医師）、森 智子（看護師）、佐藤 信幸（心理士）

地震から約2週間後、心のケアチームとして、当センターから精神科医師、看護師、心理士、また、県庁からは運転士を含めた2名の職員の計5名で避難所のある盛岡市へ向かいました。

避難所は、盛岡市の南、車で20分ほどにある「ふれあいランド岩手」という、こちらの中央シルバーエリアのような施設です。室内プール、陸上トラック、図書館などが完備され、体育館、ホール、和室などで概ね100名程度の方々が沿岸部から避難し、生活されていました。

3日間でのべ8名の方々が自発的に相談を希望されたほか、居住スペースでも何人かの方々とお話しをすることができましたが、どの方の体験も強烈で、悲しみで胸が張り裂けそうなものばかりでした。

本当にぎりぎりのところで避難をされて、ようやくこの場にたどり着かれた方々にとって不眠・不安は健全な反応です。

薬も準備していきましたが、徒歩圏内に日赤病院もあり、医療的な機能も利用可能な状況であり、処方が必要となることはありませんでした。



相談室

ただ、話すことを望まなかった多くの人が、実際は深い悲しみを抱えて、苦しい思いをしていらっしゃるかと思うと、我々の無力さも痛感した活動となりました。

3日間というあまりにも短すぎる期間でしたが、心のケアチームは、リハセンからすでに第四班が発ち、5月以降も大学病院と連携して継続する予定です。（佐藤 信幸）



ふれあいランド岩手



## 第2班からの報告

派遣職員：兼子 義彦、鈴木 文子（看護師）、菊谷 千映子（心理士）

「地震後の状況はカオスであった」。これは、宮城県の石巻赤十字病院で被災しその後も勤務を続けている友人の言葉です。活動を終えた今、この言葉の意味を少し理解出来たように思っています。

私達のチームは、当センターから鈴木（文）、菊谷、兼子、秋田県庁から後藤、土肥の5名編成にて4月6日～9日の期間岩手県宮古市で活動を行いました。主な活動内容は避難所の方々への精神的・心理的ケアでした。

活動の1日目、高まる緊張感に加えて想定外の出来事が続出する事態に直面し、私の頭の中はパンク寸前となり、忘れ物を連発して同行したスタッフを啞然とさせました。同日夜には震度6弱の余震に遭遇し、深夜の暗闇に防災放送が響き渡り、緊急車両が走り回る光景を目の当たりにして、まさに混沌の領域に踏み込んだことを自覚させられました。

活動を終えるまで、頭の中にたくさんの汗をかき、やせませんでした。日々、計画を修正しながら活動し、何とか最低限の役割を果たせたかとは考えていますが、同行したスタッフの頑張りなくしてはその段階に到達することも出来なかったと思います。スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。また、不在に御協力



（左から菊谷さん、鈴木さん、兼子先生）

くださいました病院職員の皆さん、患者の皆様はこの場を借りて謝意を表します。ありがとうございました。

被災地では未だこころ休まらぬ状況が続いているものと思います。被災地の一日も早い復興を切に祈りつつ、活動報告を終了といたします。（兼子 義彦）

「心のケアチーム」の支援活動は引き続き第3班が4月13日から16日まで、第5班が4月20日から23日まで宮古市で支援活動を行いました。

派遣職員：第4班 向井 長弘(医師)、高塚由紀子(看護師)、堀井 悠一郎(心理士)

第5班 倉田 晋(医師)、成田 剛(看護師)、佐藤 篤(精神保健福祉士)

今後モリハセンと大学病院の連携したチームが6月まで派遣される予定になっています。被災地の1日でも早い復興をお祈りいたします。



# リハセン人事異動

## 4月からの役職者を紹介します

### ●診療部次長：横山 絵里子

このたび新年度から診療部次長を仰せつかり、ふとある言葉が浮かびました。

遠い学生時代、テニス部の先輩に初めて指導を受けた時のことです。

「初めはボールしか目に入らないでしょう。だんだん自分や相手の動きが見えてきて、そのうちコート全体でのプレイや観客席まで見えてくるよ。」と。

個々の診療、病院全体、地域、日本、そして世界の医療や人々の生活まで、広く深く見つめるミクロの目と俯瞰の目を持ちたいもの。

今回の東日本大震災では殊にその感が強まりました。更に気を引き締めて努力したいと思っております。

宜しく願いいたします。

### ●栄養科長：荒巻 晋治

このたび横山絵里子先生の後任として、栄養科長に就任いたしました。消化器科としての診療を行っていることもあり、栄養管理には以前から興味がありましたがまだまだ浅学です。これまで通り、スタッフと共に病状に応じた適切な食事の提供を行い、病気の回復を促進するため、日々努力して参りたいと存じます。至らない点が多々あると存じますので御指摘、御指導いただければ幸いです。これから宜しく願い致します。

### ●看護師長：佐藤 智子

この度、外来師長を命ぜられこの出来事に押しつぶされそうな重圧と不安を感じています。昨年、看護管理研修を終え自分自身の仕事を含めた生き方そのものを見つめ始めたばかりでした。自分自身の方向性と現実の役割には多少の違いはあるものの、目指す先は「患者さんにとってのより良い看護」「看護師にとって生き生きとやりがいが見い出せる看護」です。外来は新たな出会いが生まれる場所でもあり重要な部分を担っています。これまで築き上げてきた外来看護の実績を更に積み上げていけるように、スタッフと共に歩んでいきたいと思っております。

### ●言語聴覚療法室長：中野 明子

言語聴覚療法室の定員は5名、今年度は女性4名でスタートしました。言語聴覚士の業務は、失語症、発声構音障害、摂食嚥下障害、聴覚障害、認知症、高次脳機能障害の評価・治療です。最近では学習障害、発達障害への教育支援のニーズも高まっています。

第一の目標はあと1名の増員。そして5人の個性を活かし、種々の障害に対応すべく、他部門と協力の下、臨床や研究を積んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。

### ●臨床心理室長：佐藤 信幸

今回、臨床心理室長に任命された佐藤です。東北では匿名のような名字なので、ファーストネームで「のぶゆきさん」と呼ばれることが多いです。

臨床心理室は総勢3名の小さな部屋ですが、私たちには、常に仕事の手伝いをしてくださる大勢の方々がついています。心理検査にしてもカウンセリングにしても、その方々の共同作業がないと務まりません。今後もその方々（患者様）への感謝の気持ちを忘れずに日々精進してまいります。

### ●理学療法室長：長谷川 弘一

平成23年4月1日付け当センターリハビリテーション部理学療法室長に就任いたしました長谷川弘一です。

リハビリテーション部には、理学療法士20名(平均年齢20歳代後半)が在籍いたしております。スタッフ全員が日々行われる患者さんへの理学療法の実践はもちろん、各種勉強会や講習会等へ積極的に参加し自己研鑽にも勤めております。理学療法室では、自分や自分の家族も受けたいとなる理学療法をモットーとして患者さんの心や体の回復に努めております。今後も、笑顔があふれる理学療法を提供いたしていきたいと思っております。

### ●作業療法室長：高見 美貴

平成20年度から365日リハビリテーション体制が開始され早いもので4年目を迎えました。職員数もこれに伴い徐々に増員し、現在は20名の作業療法士がリハビリテーション科、精神科、認知症、精神科デイケアの患者様に作業療法を行っています。作業療法士は20代の新人から経験年数20年以上まで幅がありとてもバランスのよい組織ではないかと思えます。その中で私の第一の役割は個々の作業療法士が意欲的にいきいきと仕事に取り組むことができるように環境を整えることだと思っています。そのことがよりよいリハビリテーションを提供することにつながると考えています。今後も作業療法室長としてリハセンらしい作業療法室をつくり上げることができるよう真摯な態度で仕事に臨みたいと思えます。どうか皆様からも忌憚のない意見をお聞かせいただければ幸いです。

## 看護研究発表会の紹介

センター設立時から、質の高い看護と看護学の発展を目指し、毎年7～8題の看護研究を行い院内で発表しています。8年前からは外部講師から指導、講評をいただき、倫理的配慮に努め、精度の高い研究に取り組み、積極的に院外への公表も行っています。昨年度は院外発表8題と充実した年になりました。看護研究の期間は約1年間で、業務と平行し休日も研究活動当たり、2月に院内発表会を実施しています。研究課題は、身近な疑問や患者様への看護の振り返りが多く、昨年度は4割が退院支援に関する内容でした。発表会は看護部主体ですが、他部署の参加も漸増しています。研究結果を病院全体で共有し、患者様へより良い看護や医療の提供に繋がればと思っています。

(看護研究チーム：リーダー 一ノ関 猛)



## 新診療スタッフの紹介

### 神経・精神科

・成田 恵理子先生：

秋田大H18年卒。精神保健指定と精神科専門医の取得に向けて精神医療全般にわたって研修中。何事にも意欲的に取り組み、ていねいに診療にあたっています。H23年4月に着任されました

### 医師の退職：神経・精神科

- ・寺門 靖太郎先生：平成23年3月31日付で退職されました。
- ・北條 康之先生：平成23年4月30日付で退職されました。







## 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター(リハセン)

〒019-2413 秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田 352  
 電話 018-892-3751 FAX 018-892-3757  
 URL <http://www.med-akitarehasen.gr.jp/>

電話で受診日と受診時刻をご予約ください。  
 現在、他の病院などにかかっている方は、  
 紹介状(診療情報提供書)をご用意ください。

**電話：018-892-3751**

### 秋田市からは車が便利!!

秋田中央IC～(協和IC経由)～病院玄関まで17分以内



## 電車とバスでリハセンに来るには

平成22年4月現在

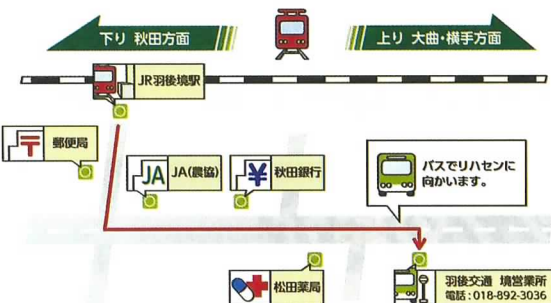


- JR 奥羽本線、羽後境駅で下車。
- 徒歩で羽後交通境営業所に向かいます。(約3分)
- 羽後交通境営業所から淀川線でリハセン経由「福部羅行き」に乗ります。
- 羽後交通境営業所からリハセンまで約10分。リハセン玄関前のバス停で下車。

### バス時刻表 (平成22年4月1日現在)

境営業所	坊台	リハビリセンター	坊台	リハビリセンター	境営業所
発	発	着	発	発	着
8:10	8:17	8:20	7:35	—	7:52
9:10	9:17	9:20	9:15	9:18	9:28
▲10:20	10:27	10:30	—	9:25	9:35
11:14	11:27	11:30	▲11:25	11:28	11:38
▲12:20	12:33	12:36	12:25	12:28	12:38
14:04	14:17	14:20	▲13:33	13:36	13:46
15:04	15:17	15:20	15:25	15:28	15:38
▲16:04	16:17	16:20	16:25	16:28	16:38
17:14	17:27	—	▲17:25	17:28	17:38
18:34	18:47	—	18:25	18:28	18:38

▲印は日曜日・祝日運休



所要時間と料金		
<b>JR上り</b>	<b>JR下り</b>	<b>バス</b>
秋田駅～羽後境駅 約25分 運賃480円	大曲駅～羽後境駅 約24分 運賃400円	境営業所～リハセン前 約10分 運賃310円

**タクシーをご利用の場合**  
 小山ハイヤー 018-892-3049 など

#### 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター診療情報

診療科目：リハビリテーション科、神経・精神科、放射線科  
 診療日：月～金(祝日・12月29日から1月3日を除く)  
 受付時間：午前8:30から11:00まで

病床数：一般病床:50床、療養病床:50床、精神病床:200床

●センターの特徴：365日毎日リハビリ訓練  
 脳ドック・物忘れ外来・精神科デイケア  
 画像診断(CT・MRI・SPECT)  
 日本医療機能評価機構認定

### 電話相談のご案内

リハセンへの受診や入院に関することについて、  
 電話での相談に応じております。  
 お気軽にどうぞ。 電話 018-892-3751  
 ホームページアドレス <http://www.med-akitarehasen.gr.jp/>

発行 行  
 秋田県立リハビリテーション・  
 精神医療センター  
 〒019-2413  
 秋田県大仙市協和町上淀川字五百刈田352  
 電話 018-892-3751  
 発行責任者 小畑 信彦